

1. 乳歯齲歎の診査、治療計画 ならびに処置の判定について

なかお小児歯科 中尾哲之

歯科医院に小児患者が来院した時にどんな検査を行い、いかなる診断の基にどのような順序で処置を行って行ったら良いかは皆さん悩まれることではないでしょうか。今回は乳歯に関してそのような内容について述べてみたいと思います。

まず診査ですが、口腔内診査は勿論のことレントゲンはフルマウスで採得する必要があると思います。また問診表等により既往歴をチェックしておくことも必要です。そして治療計画はその子の年齢、発育に合わせて立てて行く必要があると思います。

今回は実際に齲歎治療に来られた患者さんが応急処置から初めて治療を終了するまでの流れについて話をしたいと思います。また歯髄に炎症が生じ、歯周組織に病変が及んでいる時に保存処置を行うのか、抜歯をするのかについては皆さん考えられることが多いことと思います。後継永久歯との関係、歯根、歯周組織の状態等から判断して決定する訳ですがそのことについても述べたいと思います。

2. 安全な診療環境を作る保護者との協同作業

もうり小児歯科 毛利元治

小児患者の受診態度は、術者側の能力以上に、保護者の考え方や姿勢に影響されることが多い。しかも、術後の管理は、大部分を家庭にゆだねなければならない。例えば、母親が持つ歯科への恐れが、過保護な態度として現われたり、子供の緊張感を強めている場合が少なくない。また、術後の対応によって、次の受診態度が変わることもある。

したがって、安全な診療環境を整える条件として、保護者の理解を得る努力が欠かせない。適切な情報の提供によって、親と医院が同じ土俵で話し合えれば、誤解から生じる不安も小さくなり、患児の受診環境も自然に整ってくると思う。

今回は、以上の考え方を前提にした待合室の環境作りなど、治療以前に保護者に渡す情報について述べる。加えて、口腔周囲の緊張が極端に強いために、治療やブラッシングが困難な小児に、口唇の捕食動作を応用して効果を上げているので紹介し、皆様のご意見を伺いたい。